

思っているところでございます。

あと学校の交通安全プログラムを作成されているってことは大変結構なことで、これどういうものなのか後で何か文書でも、資料でもいただければなというふうに思いますので、教育長、よろしく願い申し上げます。

本当に限られた時間でなかなか、まだまだちょっとお話ししたいことがあるんですけども、次回に譲るということで、私の質問はこれで終わらせていただきます。どうもありがとうございます。

梅津善之議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 次に、順位12番、議席番号9番、梅津善之議員。

(9番梅津善之議員登壇)

○**9番 梅津善之議員** おはようございます。

いつになく気温が低い9月を迎えております。農作物を栽培している私にとっても、農作物に影響のないよう、秋の収穫に影響のないよう望む1人でございます。自然の恵みで生育している農産物の生命力の強さとはかなさ、そして農産物に感謝しながら、一般質問を行いたいと思っております。

まず、大きな1番目の質問でございます。フラワー長井線、山形鉄道についてです。

大正2年、当時の国鉄が長井線の赤湯―梨郷間が開通され、翌年、長井間、そして10年後の大正12年に赤湯―荒砥間が開通したと書かれております。総延長は30.6キロメートル、当時、国鉄長井線は地域の公共交通として沿線の地域住民にとって待ち望んだ開通だと思っております。その後、昭和45年、1970年当時の国鉄ローカル線廃止が検討され、1980年、昭和55年には国鉄再建法が成立し、全国の赤字路線、1次、

2次廃止路線対象73路線が発表されました。その中には長井線は含まれておりませんでした。1985年の昭和60年、国鉄自主再建計画として1月の10日に東北地方でただ1路線、長井線が61年度中に廃止するという方針が示されました。

当時は沿線2市2町はもとより、山形県も含めて長井線を守る連絡協議会が結成され、地域住民、農協、PTAや婦人会、青年団、各政党、地域の事業所や組合一堂に集まり、長井線を守ることの大切さや地域の発展、振興、開発に長井線は公共交通として欠かせないものだと、2市2町はもとより山形県民を挙げて運動を展開されたとなされております。

しかし、1986年、昭和61年、長井線の廃止の危機に直面したとき、採算面は厳しいが、高校生の多くの利用があったことから、沿線住民の強い要望によって1989年、昭和63年10月に第三セクターとして山形鉄道フラワー長井線として運行をスタートしております。

しかし、自動車の普及や道路網の整備、少子化による通勤、通学の利用者の減少などにより、6億円の基金も赤字の補填によりもはや枯渇寸前でございます。山形鉄道として人件費の削減や経営改善により人員の削減、そして最少の人員で最大のサービスを提供できる努力や公募社長による旅行会社とのタイアップにより、利用者の増の取り組みやイベント列車として読み聞かせ列車や七夕列車、サンタ列車や綱引き列車、冬の道草、地元の楽しみを探せ、餅つき列車や最近ではプロレス列車など、多彩なイベントなどを通して努力してまいりました。

さらに、オリジナル商品の開発、ネクタイピンやタオル、マップ、カレンダーの販売などが発売されております。その中にはフラワー長井線沿線の77店の紹介があり、これは先週の土曜日、山形新聞に載っておりましたが、フラワー長井線沿線の77店舗のお店の紹介のあった本が発売されております。

さまざまな山形鉄道の並々ならぬ努力はわかりますが、それらが業績に結びつき、幾らかは利用者増になるものの、大震災の影響や2年連続の豪雨災害など外的要因はあるものの、なかなか経営的には大変な状況にあると私も認識しております。

そこで、このような状況を踏まえて、市長が山形鉄道フラワー長井線の社長に就任なされた経過や今までの総括とこれからの山形鉄道としての考え方、方針などをお聞かせください。

さらに、地域づくり推進課長には、フラワー長井線を横断している水路、陸橋、さまざまな橋、水路などがございます。それなどの改修の計画などあるかどうかをお尋ねします。

続いて、大きな2番目です。秋祭りの季節を迎えております。毎晩のように聞こえてくる各地神社での練習、心踊らせてるのは私だけではないかと思えます。このお祭りに欠かせないのが笛と太鼓です。特に太鼓は各地のお祭りを見ておられますと、建元のお祭りをしていらっしゃる方々はもとより、それ以外の方々も一緒になってたたいている様子をお伺いします。私は太鼓も笛もできませんが、参加型観光の一つとしてこの太鼓の達人ゲームの活用をどうかというもので提案させていただきたいと思えます。

子供たちにはなじみがあると思えます。私はインベーダーゲームで育った時代でございますので、全くゲームはわかりませんが、ゲーム機の中のWiiやナムコやセガで代表される太鼓の達人でございます。地元の祭りばやしをゲームソフトに組み込み、全国のゲームファンに黒獅子バージョンをPRする、そのことをぜひ実現させたいものだと思っております。

それはさまざまな形で地域のお祭りの継承、全国から黒獅子まつりに、そして各神社ごとに行われる秋祭りや例大祭に太鼓をたたきに長井にごんざいという参加フレーズでぜひ呼びかけていきたいものだと思っております。地域文

化の伝承をゲームソフトにすること。そして子供から大人まで気軽に参加できるお祭りになればいいと思っております。ゲームメーカーとの交渉には課題はあるものの、太鼓の達人がローカルバージョンがあっても決しておかしくないと思えますし、さまざまな太鼓のたたき方をこの太鼓の達人のソフトに載せて発信することで、長井のお祭りの参加型観光の一助になればいいかと思っております。この件については商工観光課長にお伺いしたいと思えます。

最後の質問でございます。6月の定例会での飯豊町との上水道についてです。

私は今でも隣町とは仲よくしたほうがいいなという思いでもう一度申し上げます。6月定例会でも申しておりますが、8月のお盆の最中、飯豊町の担当者より長井市の水道水を供給できないかとの申し入れがあったそうです。どうせ簡単に仮設でもおつなぎできるのであれば、この際仲よくできて長井市の水道水が隣町にも供給できてお互いがよくなればいいなと思っております。

ぜひ市長にはその後、町長とどのような話をされたか。また、その上で上下水道課長には今後の進め方などをお聞きしまして、壇上からの質問といたします。ご清聴ありがとうございます。（拍手）

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 梅津議員から大きく3点ご質問をいただいておりますが、私からは2点お答えをさせていただきますと思えます。

まず、最初、山形鉄道フラワー長井線についてお答えを申し上げたいと思えます。議員のほうからは、社長として私が就任するということで新体制になったわけですが、観光事業を推進していくのか、それとも主に通学の交通手段としての運営をしていくのか、何か将来にわたってのビジョンがあるのかということやら、あるいはなぜ社長に就任したのかという経緯などに

ついてのお尋ねでございます。

ちょっと話が長くなって恐縮ですが、私が市長に就任したのは平成18年の12月なんですけども、19年になりましてから、当時の知事、齋藤知事でございますけれども、フラワー長井線のことをいろいろ話してるときに非常に気になったお話があったんですね。当時もう基金がかなり減りましたので、6億円あった基金が1億円、それでも2億円近くあったと思うんですけども、いつまでも6,000万円の支援はありませんよと、どっかで判断しますと、こういうことをちらっと言ったんですね。ああ、これはこのままでは廃止を県としては考えているんだなというふうに私は考えまして、当時、民間の、しかも製造業出身の社長でありまして、特にそういった製造業出身の方々が山形鉄道の主な経営陣だったんです、社長も専務も部長も、ほとんど製造業と。ですから、コスト管理をしっかりして、あとは労務管理などもしっかりされているんだろうというふうに思っていました。

議員ご指摘のとおり、フラワー長井線、第三セクターとしてスタートしたときは年間144万人の利用者がございました。現在は62万人まで減ってるわけですから、確かに平成の初めから現在までの物価っていうのはそんなに変わっていないと思うんですけども、給与等も。少なくとも維持費は半分にはできないですよ。鉄道事業っていうのは装置産業ですから、必要な部分はある程度はカットできます。2割、3割はもう限度だと思います。ところが利用者は半数以下なわけですから、売り上げは半分以下と。値上げもしてませんので、そういうことで非常に厳しいと。私が平成19年度当時にもそう思っ

状況だと思ってます。

現に今、観光のほうでお世話になってる清水慎一先生はJR東日本の仙台支社長をされた方ですけども、清水先生おっしゃるには、鉄道がなくなると高校がだんだんちっちゃくなると。なくなった高校っていうのはあるんだよと、全国に。いろんな例があるんだよと。高校がなくなると子供たちは市外の高校に行くと。高校まで地元でいた子供たちは卒業して大学行ったとしても、いろんなところ就職したとしても、戻ってくる率が高いと。ところがもう高校から市外に行ったまちっていうのは、もうかなり打撃を受けていますよと。だから、市長、鉄道はなくしちゃいけないんだということをすごくおっしゃるんですね。

そういうことも、それは今の話ですが、当時やっぱり朝晩の高校生の足としてはこれは絶対欠かせないと。そうしますと、日中の時間帯、車掌さんも運転手さんも工務のほうももうちゃんというわけですから、しかも知らないでしょうけども、24時間なんですよ。交代で、フラワー長井線っていうのは24時間管理してるんですね。宿直でちゃんと守衛室とか災害に備えてるんですよ。そういうことですから、あいてる時間に観光客を、あるいは沿線の人に乗ってもらって、それで赤字を圧縮しようということで、私が働きかけまして、沿線の自治体の首長さんとかいろんなところに働きかけて、今までの社長さんにいろいろ相談して、わかったと、私はそういうのはできないから、新しいフレッシュな人を入れようということで合意しまして、公募社長っていうのをやったわけです。これが7年前です。

公募社長を決める際にも、実は反対がありました、沿線から。沿線の自治体から、そんなもの必要ないと。どうせフラワー長井線なんて要らないんだって、こういう自治体もありました。だけでも何とか説得して、結局全会一致で70人

の中から野村さんっていう方が社長として就任したんです。彼もかなり頑張りました。相当注目を浴びましたし、テレビとか新聞等々でいろいろ注目を浴びたわけですが、震災もあったということで残念ながら思うようにはいかなかったと思います。そんな中で、野村社長が階段から落ちて骨折して、ちょっと山形から通うのが困難になったんですね。何とか長井に来ないかと言ったら、実は埼玉出身で山形にうちを買ってしまったんだと。子供も2人、小学校、中学校通ってるんで、残念ながらこちらに移ることはできないということで通ってたわけですが、それがなかなか来れなくなったんですね。毎日は無理だということで。それで結局、野村社長が退任をします。3期6年務められました。

そういったことで果たして、じゃあ、今度誰が社長をやるべきかということになったわけですが、私が3年前に、当時、野村社長が社内で孤立してるというようなうわさを聞きつけて、いろいろ聞いたらちょっとなかなか大変だということで、3年前から私が副社長として本当に月1回か2回程度ぐらいですけども、経営の状況を知ることになりました。副社長として就任してみてもびっくりしたのは、余りの山形鉄道のひどさ、ひどいです、この会社は。工務が、あるいは車掌がしっかりしてますけども、いわゆる経理も含めて、企画、営業、総務が全く機能してない。ですから、運行だけはできてるんですが、それ以外の部分がちょっとやっぱり弱いと。人の体制がとれないですね。人件費を圧縮してるもんですから。

そういうような状況でできれば私は社長は避けたいっていうふうに思っていました。社長をやめられるっていうことだったもんですから、まずは沿線の自治体の首長さんに、私が副社長ですから、どうしましょうかということでいろいろ相談して、実は2人の方に当たりました。私を中心に1人、この人いいんじゃないかってい

うことで話しして当たって、残念ながら無理でした。2人目の人も当たったんですが、残念ながら受けてもらえなかったということで、あと県のほうにもいろいろ相談したんですが、県のほうでは沿線で何とか考えてほしいということでございましたけれども、最終的には6月の、ことし6月の臨時取締役会におきまして、私が副社長を務めていたということで、長井市長が責任をとってっていうわけじゃないんですが、適任ではないかということで私が引き受けるということになりました。

フラワー長井線の存続の重要性っていうのは、私はすごく感じておりますが、沿線で2市2町で温度差ございますけれども、持続可能な鉄道にするには構造を変えていくしかないというふうに私は思っております、地域のかげがえのないインフラであるということから、どういふふうにして持続できるような鉄道の仕組みをつくって次世代につなぐかっていうのが私の役割だなど、長井市長としての役割だなどと思っていて、引き受けたところでございます。それが経緯です。長くなりました。

今後の展望でございますが、まず、そのためには日本では実は鉄道事業っていうのは公設民営っていうのはできないんですよ。鉄道事業法っていうのは民設民営って決まってるんですね。ところが調べてみますとヨーロッパとかアメリカとかは公設民営オーケーなんですね。ほとんどヨーロッパでは公設民営なんですね。結局例えば空港一つ、あるいは港一つにしてもそうなんですが、自治体とか国とか地方公共団体で空港を整備します。港も整備します。そしてそれを民間が利用すると、使用料を払って、こういうふうなやり方なんですね。ヨーロッパなどの鉄道では、鉄道施設は全部国とか地方自治体が整備して、それを運営だけを民間に任せるという形なんですね。これでいくしかないだろうということで、そのための国のほうに申請をして、

鉄道事業の再構築事業ということで認めていただいて公設民営できるようにするという手続をやることに決めました。今年度それを申請いたしまして、来年度からそれで再スタートしたい。

形態が5形態あるんですね。いろんなタイプがあるんですが、最低限、長井市にある鉄道ありますよね。敷地とあと駅舎とか、そういったものはその自治体が所有するってということなんですね。そうしますと、長井市が鉄道事業者になるってということ、第3種の。インフラを持った鉄道会社っていう形になるんですね。今、山形鉄道は第1種の、施設を持って運行もしている第1種の鉄道事業者なんですね。第2種ってというのは運行だけをやっている鉄道事業者なんですけども、私どもは第3種になって、山鉄が1種になるか、今1種ですけど、2種になるか、これを検討しよう。

これは相当温度差がありますので、大体隣の白鷹町さんとうちは同じ認識です。なくなったら大変だと。荒砥高校、長井工業高校、長井高校、まずなくなると。生徒が集まらないですね、広域から。ですから、これは非常に大変だということで、これは認識が一緒なんですけど、あとはなかなか温度差があって難しいんですけども、これを調整するのが私だと。これは民間の方よりは私どもの沿線の中からだろうということで私になったわけですけども、そのために地域公共交通網の形成計画っていうのを立てなきゃいけないんですが、それについては皆様、6月の予算お認めいただいて、沿線の2市2町、その予算通りしましたので、約1,000万円で今民間のシンクタンク等をお願いして、その業務に当たっていただいているところでございます。

そんなことで私の任期は2年で、これ以上は絶対する気はありませんけれども、2年目はまず初年度のスタートだということで、2年目まで、来年度まではさせていただきますが、同時に次の社長を民間から、できれば吉村知事とは

女性の社長がいいねという話をしておりますが、その辺などを来年は私が責任を持って知事などと話して、沿線の自治体の皆さんと何とか選びたいと、よりよい経営体制にしたいと思っております。

2点目の上下水道について、飯豊町との話し合いはその後どうなったかというご質問でございます。梅津議員からありましたように、隣の人とは仲よくしたほうがいいというのはごもつともでございます。私どもも特に飯豊町さんとか白鷹町さん、両隣でありますし、同じ長井都市圏、経産省でいう都市圏の中の町同士ですから、やっぱりここはいろんな連携を図りたいということで、実は平成20年にも、以前にも話ししましたが、長井市、白鷹町、飯豊町の1市2町の水道事業の広域化ということを実は私ども提案してるんですね。その際には山形県の食品安全対策課というところに仲介してもらって、その指導などを仰ぎながら勉強会を、最初からいきなりでは大変ですんで、数回開催してその後、飯豊町さんのほうから施設の老朽化が著しいということで、水道水の供給の相談を県が受けていたんですね。事業化に向けた検討を私どももそれをやってるって聞いてたんですけども、私どものほうで一緒にやりませんかというふうに言ったんですが、やはり、恐らくこれは推測ですが、上水道ってというのはライフラインの最たるものですから、これは自前でやりたいと。長井市に頼むのは町としての独立性が問われるって判断だったのかもかもしれません。結局21年に自前の水源を整備したいということで見送りということでお断りということでございました。

飯豊町の水源開発の経緯を調べてみますと、平成23年に水道水源としている白川河川の河川水において異臭騒ぎがあったっていうのはご存じだと思うんですが、現在、浄水場に活性炭素入りの装置を設置し、異臭物質を除去して水道

水を提供しているということでございます。これは白川ダムの水ですね。しかしながら、十分な改善が見られないことから、平成26年度に良質な水道水源を確保するため、町内数カ所の試掘調査を行った結果、長井市九野本境の飯豊町中地区、長井市の境界から大体100メートルもないぐらいだと思いますが、のところを開発予定地として選定したと。試掘してるっていうことは私は聞いてたんですが、うわさで。平成27年度当初予算で設置設備費4億200万円を計上して本掘りをしたというようなことでございます。

その後の経緯は梅津議員ご承知のとおりですが、地元の平野地区の住民が不安とその後のいろんな心配があるということで、市のほうに相談されたことによって、私どもは初めて飯豊町でそういうことをなさってるっていうことを知りました。事の重大性を認識された飯豊町長さんが、まずは副町長がちょっとおわびと事情説明にお越しになりました。それはうちの副市長が対応して、5月の末に町長もいらっしゃるということで、私がお会いしてお話を聞いたところですが、これはお互いさまだから仕方ないねということで、ただ事前に相談していただければこんなに地元の平野地区の方も不安にならなかったんじゃないでしょうかっていう話はしましたけれども、これは隣町ですから仲よくしなきゃいけないということで、それ以上のことは申し上げませんでした。

一方で、この8月10日、ことしの8月10日ですが、飯豊町長から、これは私に直接、萩生川の濁水によりまして萩生大平浄水場の能力が低下して、萩生地区の住民に水道水の供給ができなくなるおそれがあることから、長井市に応急給水の緊急要請がございました。現状の平野浄水場の給水能力から220世帯ぐらいって言われたんですが、ちょっと十分これだったら可能ではないかということで、お盆の帰省時期を控え

使用水量が増加することから、至急対応するように職員に指示して、平野の太い管からそちらのほうに水を送って、現在も行っているところでございます。8月13日からまずは約40世帯に長井市から応急給水を開始しているところでございます。

萩生川の濁水状況が改善しないことから、8月31日からは46世帯を追加して現在86世帯に応急給水を行っております。お盆以降、雨が降る日が多くなっておりませんが、ダムの貯水率が一段と低下しております、8月31日現在で長井ダムが61.8%であるのに対して、飯豊町のもう一つの水道水源となってる白川ダムは22.7%という低下だそうでございます。引き続き飯豊町への応急給水の支援が必要と捉えているところでございます。

私のほうからは以上でございます。ちょっと長くなりました。

○**渋谷佐輔議長** 谷澤秀一地域づくり推進課長。

○**谷澤秀一地域づくり推進課長** 私のほうからは、大きな1の(3)フラワー長井線を横断している水路の改修可能性についてお答えいたします。

長井市管内におけるフラワー長井線を横断している水路について調査しましたところ、橋梁は全部で34カ所、伏せび、これはいわゆる排水を目的とした土管やコンクリート管ですが、これが78カ所、あと下水きよが8カ所、排水溝が5カ所というふうになっております。山形鉄道にお聞きしましたところ、これらの改修は可能であるというふうなことでございます。

ただ、水路を管理する県あるいは市の建設課、あるいは土地改良区など、こういったところで現況に合わせて横断管の布設などはこれまでも行ってきているということですが、現況よりも水路幅を広げたり、あるいは1メートルを超える改修となりますと、国の運輸局の認可が必要になるということで、設計施工が受託工事となりまして、事業費がかなり高額になってくると

ということです。1メートル以上の水路は橋梁扱いということで施工単価が1メートル1,000万円ぐらいになるというふうなことでございます。

具体的な改修計画については、その水路を管理します県や建設課や土地改良区と協議し、山形鉄道と契約を締結してから施工に入るということであるということです。以上になります。

○**渋谷佐輔議長** 川村直人商工観光課長。

○**川村直人商工観光課長** 参加型の観光推進という観点から、ながい黒獅子まつりのさらなるPRのために実際に楽器の演奏を体験できるゲームを活用してはどうかというようなご質問にお答えをさせていただきます。

私ども商工観光課でも議員から発言通告をいただきましてから、ご発言がありましたゲームの製造元であります大手ゲームメーカーにそのような開発が可能かどうか、実際確認をさせていただいたところでございます。先方からも大変誠意のあるご回答をいただきまして、オリジナル製品の制作は不可能ではないということではございましたが、1台について数百万円というような値段になってしまうというようなご回答でございました。これにつきましては、俗にゲームセンター等に配置されているゲーム機でございまして、全国で約4,000台以上の配置がされているゲーム機ということでございます。なお、家庭用のソフトにつきましては、あくまでも需要を見込んでの開発ということになりますので、現実的にはかなり厳しいのではないかとというようなことでございました。

ながい黒獅子まつりにおきまして、ことしで26回目を迎えるわけでございますが、おかげさまで今年度につきましては、6万6,000人ということで大変多くの方々にお越しをいただいたところでございます。参加型観光という点でございますが、26年度は前夜祭におきましてメイン会場となりますお庭に太鼓を並べまして、体験コーナーというようなことで獅子連の皆さん

が太鼓をたたくのに合わせて、会場に集まっている子供から大人の方々まで多くの皆さんに体験をしていただいたところでございます。

今年度につきましては、土曜日1日という日程の中におきまして、お祭りの内容を充実させるべく、市内小学校3校の子供たちによります地域文化発表会というものに加えまして、村山産業高校の又新連ということでむらやま徳内ばやしを披露していただいたところでございます。観客の皆さんも誰もが大変盛り上がるのができたというふうに思っているところでございます。

梅津議員からのご質問のように、長井の黒獅子を日ごろから広くPRして、ながい黒獅子まつりはもとより、各神社の例大祭へのより一層の誘客につながるような仕組みを考えていく必要があると私どもも思っているところでございます。なお、長井市観光ポータルサイトに今年度から黒獅子トピックスといたしまして、各神社の例大祭に関係する日程でありますとか会場でありますとか、そういった情報を掲載しております。昨年度よりも相当多くの方にお越しいただいたということで、ある神社様からご報告をいただいているところでございます。

先ほど申しましたアミューズメント、つまり娯楽マシン並びに家庭用ゲームソフト等で市内の各神社のおはやしをたたいて楽しみながら点数を競い合うという姿を想像いたしますと、大変楽しくすばらしいことと私どもも率直に思っているところでございます。すぐに実現できるかといいますと、先ほど申しましたように、ハードルは大変高い部分がございますが、いかに多くの方々に長井にお越しいただいて興味を持ってもらって、そして体験していただくというような観点から申しますと、そういったご発想も大変大事であるというふうに私どもも認識しておりますので、今後も貴重なご提案をいただきますようよろしくお願いをしたいと思いま

す。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 種村正一上下水道課長。

○**種村正一上下水道課長** 私のほうからは、3番目の上水道について、飯豊町との話し合いはその後どうなったかについてお答えをさせていただきます。特に平野地区の住民の方とのかかわりの経過についても含めてお答えさせていただきます。

6月の定例会の一般質問で梅津善之議員から、飯豊町の水道水源の開発に関するご質問をいただき、飯豊町に対し開発予定地周辺の長井市民に対し丁寧な事業説明と真摯な対応に努めていただくこととあわせて、住民の方から要望のあった復旧等に関する覚書について、速やかに作成し、地域の方からご理解と合意を得た上で事業を進めていただくようお願いしていることを報告させていただきました。

今回ご質問をいただきましたその後の経過でございますが、飯豊町が取水に伴い影響が生じた場合の対応について覚書を取りまとめ、7月24日、平野地区の開発予定地周辺の住民の方を対象に説明会を開催し、ご意見を伺い、ご理解をいただいたところです。覚書の取り交わしに当たりましては、浅井戸等の地下水位の経過観察地点の追加と説明会の会議録を付して取り交わすことといたしました。その後、長井市長、平野地区長会長、飯豊町長、3者で覚書を取り交わし、9月1日の文書配布にあわせ覚書の写しを平野地区長会から地区の全世帯へ隣組回覧させていただきました。

飯豊町では、先ほど市長のほうからもお話ございましたが、既にボーリング、浄水場の予算を計上しておりまして、今年度からボーリング工事に取りかかり、平成29年度から本格取水を予定しておりますので、今後、飯豊町さんが計画を中止され、長井市の水道水を利用させていただくということは非常に厳しい状況というふうに捉えております。

今後の長井市の対応につきましては、平野地区内の地下水位の変動の兆候や異常が発見された場合または取水に伴い万が一市民生活への影響が生じた場合は、飯豊町、平野地区長会と速やかに相談、協議を行い、飯豊町が迅速かつ適切に復旧等の対策、補償等を行うように調整を図ってまいりたいと考えております。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 9番、梅津善之議員。

○**9番 梅津善之議員** 答弁どうもありがとうございました。

まず、市長にお伺いしたいと思います。私もフラワー長井線を活用させていただいて学生時代、学校に通わせていただきました。当時、国鉄から変わるぎりぎりのぐらゐのときで、なくなったら困るなという思いも当然私も持っておりましたし、大切なものだと思っております。ただ、フラワー長井線、山形鉄道になって28年ぐらゐになるんです。周りの状況も変わってていうのも私自身も感じておりますし、例えば似たぐらゐの世代の親御さんが隣町の高校まで送り迎えをしているなんていう状況があったり、平野地区でいえば米沢方面に通う子供には萩生駅まで送っていったりなんていうのを見かけるときが、今もあるんですけども、なかなか当時、60年、61年、62年の長井線を何とか地域でという思いからずっと、若干地域住民の思いも違うぐらゐでねえかな、なんていうことを私自身もちょっと感じております。

自分自身もその答えを出してるわけではございませんで、ちょうど日曜日、1人で乗るのもなんだったんで、娘を連れて1,000円の切符を買って乗らせていただきました。たまたま近畿日本ツーリストでお越しのお客様がたくさん長井線に乗っていらして、車掌さんが一生懸命周りの風景やら切実な思いを一生懸命、名物車掌さんであると思っておりますけども、訴えていらっしゃる姿なんかも拝見させていただいたところで

す。十分大変な中で地域の鉄道として頑張っていがんなねなというのを感じてきて、約2時間とちょっと荒砥に行って、赤湯に行って、もう一回長井駅に戻ってきたわけですけども。

将来本当にその姿でいいか。さらには市長がおっしゃる具体的には上下分離方式の方向で、本当にこのまま運営できて、沿線住民のためになるかという議論は地域全体でやっっていがんなねなでないかなという思いを市長には申し上げておきたいし、市長であり社長であるという立場であれば、難しい判断もしなければいけないときもあるのではないかなと思いますし、2年で交代したいという思いも当然わかるんですが、その後のことも含めて、将来を含めて考えていかなければならないと思うんですが、その辺は市長、いかがですか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 梅津議員が言う将来っていうのは廃止を検討すべきじゃないかということですか。

(「いえ、決してそんなことでは」と呼ぶ者あり)

○**内谷重治市長** 私は、例えば今、沿線の高校が4つあるわけなんですけども、フラワー長井線の高校っていうのは本当に駅から近くて便利なんですよね。これを将来子供が減るということで数が減るとしても、現在この4つの高校だけで利用されてる生徒が670人なんです。当然米沢のほうに行ってるお子さんもいらっしゃるわけですし、そこからいうと相当の数の高校生が鉄道を利用してるんです。これの代替っていうのは一般的にバスになるわけですけども、ほぼ不可能ということで、10年前に県の置賜総合支庁のほうでいろんな検討を重ねたんですが、不可能だと。バスにすると40台ぐらい、47台だったかな、当時は。今は減って30台とかそのぐらいで将来的にはいいのかもしれませんが。果たして朝夕30台の大型バスが確保できるかと。

これ不可能ですよ。

ですから、これは考え方いろいろです。確かに地域住民を巻き込んでっていうのはわかります。ただ、一人一人、それとも住民投票で決めますかということになるかもしれませんが、私は長井市長としては、これは白鷹町長さんも一緒なんですけども、この鉄道をできるだけ守っていくということが、我々の次の世代への大きい未来の責任だろうというふうに思っています。

例えばよく平県議がおっしゃるんですけども、県道、県道っていうのは年間の維持費が大体除雪費も含めてキロ当たり、路線によって違うんでしょうけども、300万円、400万円だと。フラワー長井線が30キロですから、そうすると1億2,000万円だと、最大で。じゃあ、どれぐらい我々行政がフラワー長井線に支援してるかっていうと、実質的には年間赤字が26年度は7,900万円ぐらいでしたから、その部分は6,000万円まずは支援してるんですよ。それが高いのか安いのか。温度差があります、これは。そんないつまでも支援するんだったら要らないんじゃないかっていう市や町もあるわけですよ。でもそういう市や町はほかのところの路線があるんですね、鉄道が。新幹線のとまる山形線であったり、あるいは米坂線であったり。ただ、私どもは着実になくなるんで。私の今泉だけは残りますよ。でも長井の、もうかすってる程度ですから。もう長井のまちなかには鉄道がなくなるっていうことなんです。それに対して私は市長としても、住民の皆さんに、市民の皆さんによく理解してもらいたいと。

ですから、市民、住民の皆さんにもできるだけ利用してもらえような鉄道にしなきゃいけないと。かけがえのない地域資源ですから、鉄道っていうのは輸送機関としては確かにもう下火ですよ。でも再生可能エネルギーですとか低炭素化社会ということからいったら、明らか

に次世代につなぐ乗り物なんです。これを地域の住民に問いかけるっていうことには、一人一人によくよく理解してもらわないと、一方的に赤字だから、よく経営者の方おっしゃるんですよね。赤字の鉄道なんて要らないだろう。じゃあ、ヨーロッパはどうなんですか、アメリカはどうなんですか。そういう考えはしてないですよ。ですから、そのところは私どもどこまで支えられるかっていうのは、これは難しいです。

ですから、少しでもずうっと持続可能な鉄道にしようということで私が社長に就任させてもらったわけですし、それは沿線の自治体の首長の代表としてさせてもらっているということでもありますので、将来はできるだけ住民の方にも利用していただけるような鉄道をどうすればいいのか。あるいはもっともっと観光客に来てもらうための体制をどうするか。社長に就任して、8月にまずは全社員と半日ぐらい意見交換いろいろして、一人一人のお考えをお聞きしましたけども、鉄道が好きな社員が多いですね。好きなんですね。だからあれぐらいの低給料っていうか、非常に厳しい労働条件で頑張ってるんです。使命感を持っておられますんで、これは社員のための鉄道じゃないんですけども、一緒になって鉄道を盛り上げていきたいというふうに思いますんで、梅津議員にはいろいろどういうふうにすればいいのか。

あと水路の問題などあります。例えば今度南陽市さんで踏切のところを16メートル道路、都市計画道路をぼんと通す。もう1億円はかかりますよ、踏切で。こういう経費はもう本当に大変ですけども、これは必要な社会インフラだっというふうに考えれば。もともと鉄道のあったところに土地改良で水路をしたわけですから、確かにかかるんですよね。これはインフラです、道路と同じだっというふうに考えていただければありがたいなと。ぜひいろいろご指導いただ

きたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 9番、梅津善之議員。

○**9番 梅津善之議員** 市長の思いは十分に理解するところがございますけども、今言ったインフラの整備なり、非常にお金がかかると思いますし、例えば先ほど水路の話がございましたけども、土地改良事業なんかこれから計画されるところがあれば、線路を横断するような水路が必ず出てきて問題になると思いますし、1メートル1,000万円だという話をされるとなかなか大変でないかなんていう思いもあります。でも鉄道として残してやっっていがんなねという思いは十分に理解するところですので、私も一生懸命努力してそのように考えていきたいと思っております。

一番最後の3番目の、最後に質問ですけども、もはや飯豊町では決まったことでどうにもならないんだという話も十分承知をして、もう一度市長に聞いているんですけども、相手があることだからなかなかおらえの家の水道どうか仲よく使うべと言っても、おらんだやんだって言われればそれはそれで終わりなんだかもしんにえけんども、お互いがいいぐなっことを市長、町長で話してもらいたいなという思いでもう一回言わせてもらっているんです。先ほど4億何ぼかかってこれからポンプなりなんりの設備していくんだななんていう話を飯豊町さんでもう決めやってるなんていうことですけども、決して私は遅いと思わないので、何とかできれば仲よく使って、長井地域の水を全国にPRしていただけるような体制もとりたいたいなと思いますし、他の地域だからこそ仲よく水を使っていがんなんでねえかなという考えに立てば、何とかその辺は市長、仲よくできないもんですかねっていうのをもう一度お願いしたい。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** ちょっと誤解を招くようなお話なんですが、仲よくしてないわけじゃないんで

すよ。私が怒ったっていうことは一切ありませんし、こちらからどうですかというふうに、何年か前に話しかけたときには残念ながら、いーは、と断らっちゃわけですけども。ただ、その際にもっと安くできないかみたいな話されました、8億円とか10億円ぐらい。というのは、もう一つ飯豊町用に水源を確保してそこから送ったらどうだっという提案だったんですよ。したらもっと安くしてけるみたいな、そんな高いとかって言われたんですが、私どもとしてはそれでもうけようとしてるわけじゃないわけですよ。ただ、うちの現在の水道事業所の能力としては5万人の供給ができますんで、飯豊町さんのほうはもう1年中、長井のおいしい水飲めるからどうだっというふうなことだったんですけども、やはり先ほど答弁させてもらったように、ライフラインの最たるものだと。それはほかの町に頼るんじゃなくて自分たちでやりたいという気持ちはよくわかるので、そういったことだと思ったんですね。

ただ、梅津議員がおっしゃってるように、もう一回っていうことについては、今回のボーリングした水源地のところの計画ですと夏場だけしか使わないと。本当かなっていうふうに最初思ったんですが、そういうふうなことですから、ほぼ長井のおいしい水を飲んでそれ以外の期間は、ちょっとあんまりわかんないですが、そういうことですので、もしあれだったらうちの水をずっと飲みませんかということタイミングを見て話すことは必要だと思いますが、決して仲よくしてないわけじゃないですよ。だって飯豊町さんとけんかしたっていうあれはないですよ。非常に私も例えば町長さんとは、私より5つ、6つ上の方ですから、もともとお母さんが長井の方ですし、元齋藤市長の妹さんですから、そういった意味ではご本人も私の血の半分は長井だからと、こう言って、そのとおりで言ってますけども、ですから、決してそんな上

から目線などもしてません。ただ、飯豊町さんは飯豊町さんの考え方があるということで、これはお互い尊重しなきゃいけないというふうに思いますんで、なおこれからもそこは十分留意しながらタイミングを見て、梅津議員おっしゃるように、相談はしてみたいというふうに思います。以上です。

○**渋谷佐輔議長** 9番、梅津善之議員。

○**9番 梅津善之議員** ぜひ仲よくなればなんと私思っ、最後の質問を終わります。

○**渋谷佐輔議長** ここで昼食のため暫時休憩します。再開は午後1時といたします。

午前11時58分 休憩

午後1時00分 再開

○**渋谷佐輔議長** 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

蒲生光男議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 順位13番、議席番号13番、蒲生光男議員。

(13番蒲生光男議員登壇)

○**13番 蒲生光男議員** 9月定例会も最後の質問となりました。簡潔で明快な答弁をお願いしたいと思います。

4日、金子議員から、あるいは7日の五十嵐議員から、たくみのわざ、いわゆる職人のわざの技術継承について、特に大工技術の継承が難しくなっているということも私も実感しております。かなやのみが研げない、墨がつけられない。今やかなやのみやのこぎり、全てがか